



アンネのバラ

吉高人権だより

2023年 11月号

愛媛県立吉田高等学校 人権委員会発行

「過ちを正す」ということ

数学科 堀切 元生

私は、バレーボールの審判資格を持っています。依頼があれば、高校の大会だけでなく中学・大学・社会人等の様々なカテゴリーの試合で笛を吹いてきました。また、有難いことに、今年の夏休みには大阪府で行われた全国審判員講習会に愛媛県代表の一人として参加しました。

さて、ここでバレーボールのとあるルールについて考えてみましょう。競技やルールに詳しくない人もいるとは思いますが、バレーボールにも「イエローカード」や「レッドカード」が存在します。個人やチームに無作法な行為や遅延行為が発生した際にこれらのカードが提示され、公式記録にも記載されてしまいます。（←しかもレッドカードなら、相手に1点追加！）しかし、公式戦でそれらのカードが提示されることは滅多にありません。それはなぜか・・・？理由は、試合中にカードにつながりかねない行為が発生した時点で一度、ゲームキャプテンに対して「チームに対する警告」を示し、それでも改善されない時にのみカードを出すからです。要は、故意か無意識かは別として「あってはならないこと」が発生した時点で反省を促し、同じ過ちを繰り返さないように諭す、ということです。試合中に悪事を働きたくて働く訳ではないと思いますし、ほとんどの場合はこの時点で改善されるため、カードを出すには至らないというケースが多いのです。審判としてもできるだけそのような注意や警告は与えたくないため、ゲームキャプテンを呼ぶ際は大変心苦しいものですが、良くなかった行為と向き合って改善されたときには、チーム全体がとても頼もしく見えてきます。

みなさんもたまには、家族や先生に注意や指摘をされることがあると思います。その中にはきっと、「言いたくないけどこの子のことを考えると、ここで注意しておかないとなあ・・・。」というケースはあるはずです。周りの友達も叱られた人を茶化したり笑ったりで終わるのではなく、一緒に成長できるように支え合っていける集団を目指せたら、素敵なことだと思います。人は誰でも、過ちを犯す可能性はあります。だからこそ、普段の生活においても過ちから学んで正すことが大切です。成長することは「恩返し」にもつながります。前向きに学び続けることのできる、素敵な人間を目指していきたいものですね。

【人権・同和教育ホームルーム活動】



去る10月13日(金)、1年生と3年生が人権・同和教育ホームルーム活動を行いました。1年生は「人権問題を考えるⅡ」のテーマで、クラスごとに「子どもの人権について」、「アンダー・マネージメント(怒りの感情のコントロール)について」、「障がい者差別について」、「アサーション・トレーニングについて」などを取り上げて実施しました。3年生は「結婚差別の解消に向けて」のテーマで、結婚差別の実態やその解決策について学習しました。生徒の感想を紹介します。

いじめは絶対にダメという認識はみんな同じであるが、それを止めようとする人、できない人には大きな違いがあると思う。自分は、止められる人になりたい。

自分と相手だと思っていることや考えていることが違うので、すれ違いや好き嫌いができてしまうのは、仕方がないと思うけど、その中でも嫌いだから嫌がらせをすると考えるのか、嫌いだけどその人の嫌な部分では無く、すごいと思う所を見つけると考えるのかどっちが一番よいか考えることができた。

正しい知識を身に付け、差別をする側ではなく、差別をする人を正しい方向に直せる人になりたいです。

周りに差別発言をする人がいたら、本当のことを教えてあげられる人になりたい。

自分が結婚を反対されたら、両親や、周囲の理解してくれる人に相談する。

結婚をするときも同和教育での差別があり、偏見で決めたり周りやネットのことが事実ではないことが良く分かった。